

外国人雇用の状況について
(ハローワークの求職・就職・求人状況)

目 次

<外国人求職者の分析>

- ・ ハローワークにおける外国人新規求職者数の推移 4
- ・ 外国人の非自発的離職の割合の推移（在留資格計） 5
- ・ 外国人の非自発的離職の割合の推移（在留資格別） 6
- ・ ハローワークにおける一般・外国人の就職率の推移 7

<外国人向け求人の分析>

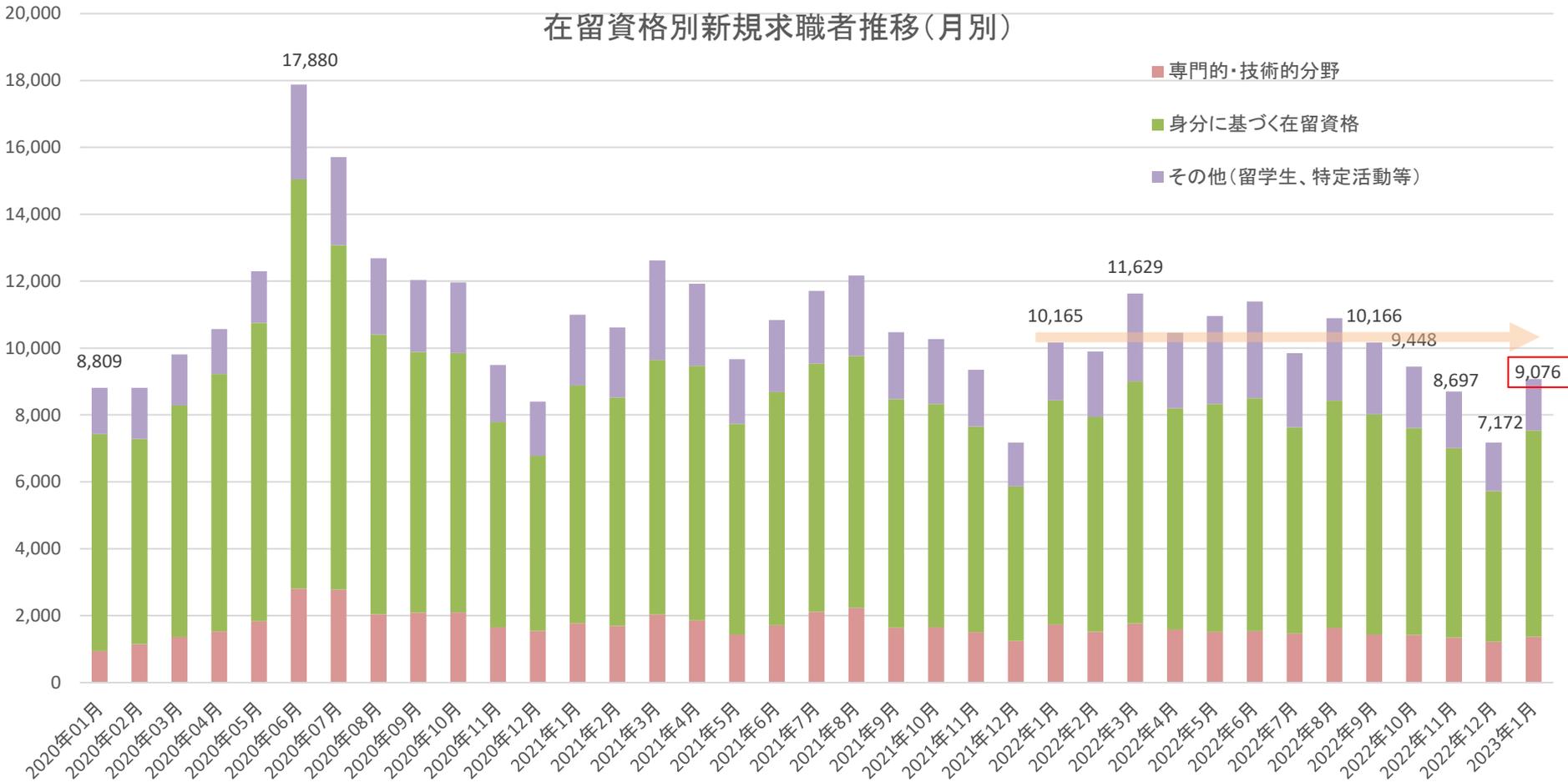
- ・ ハローワークにおける外国人向け新規求人数の推移 9
- ・ ハローワークにおける外国人向け有効求人数の推移 10
- ・ ハローワークにおける職業別の有効求人数の推移（在留資格別） 11
- ・ ハローワークにおける外国語使用有効求人数の推移 12

外国人求職者の分析

ハローワークにおける外国人新規求職者数の推移

- ハローワークにおける外国人新規求職者数（在留資格計）について、2020年6月には一時1.8万人程度まで増加したが、その後は増減を繰り返し、**2022年に入ってからは1万人程度で推移し**、直近（2023年1月）では9,076人となっている。
- 求職者のうち、身分に基づく在留資格（永住者、日本人配偶者等、定住者等）が大部分を占めている。

在留資格別新規求職者推移（月別）



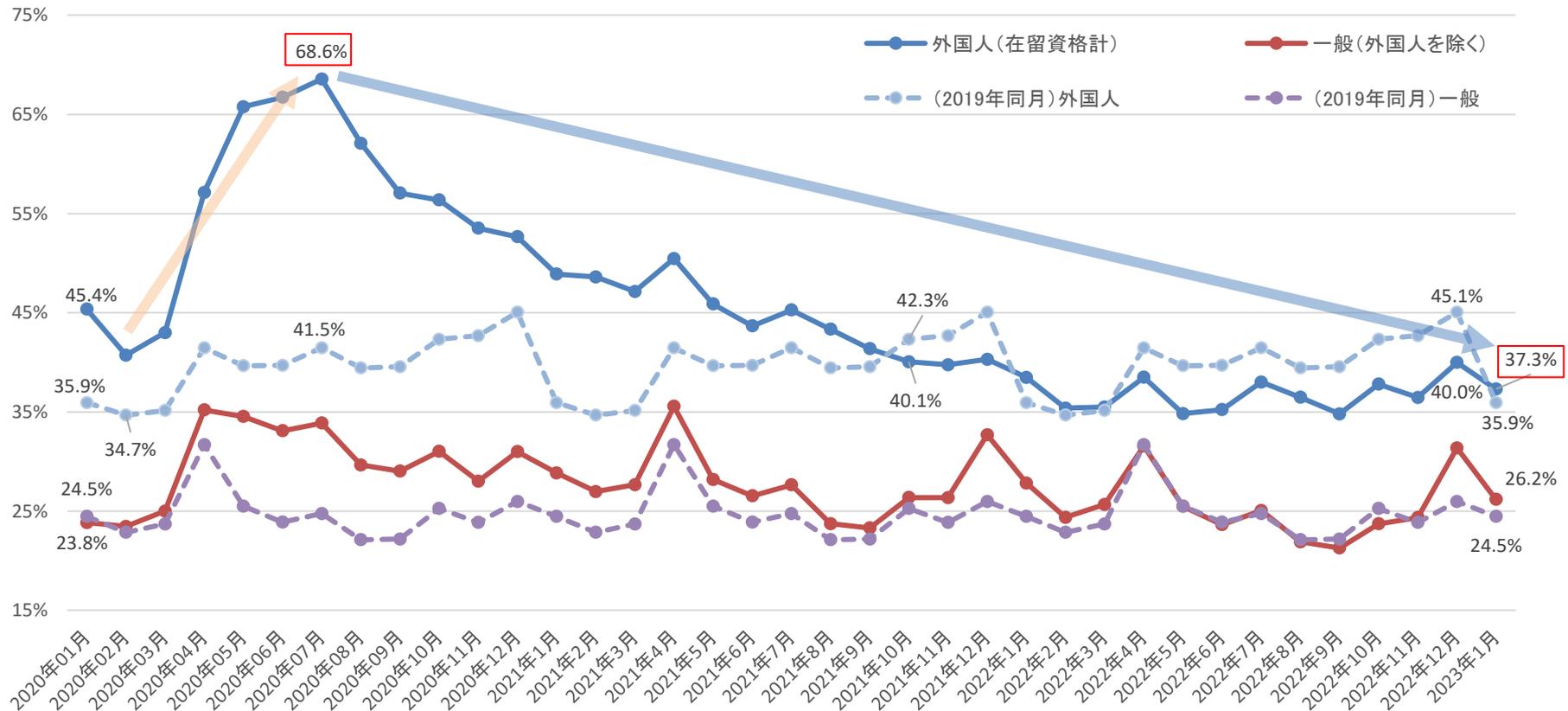
（単位：人）

（出典）ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計（全国計）

外国人の非自発的離職の割合の推移（在留資格計）

- ハローワークの**新規求職者**（在職中を除く。）における**非自発的な離職の割合**を分析。
- 外国人の非自発的離職の割合は、2020年2月以降増加し、同年7月には68.6%に達した後、漸減し、2021年10月に初めて2019年同月の離職率を下回った。その後も概ね同様の傾向が続いていたが、2023年1月は2019年同月の割合（35.9%）をやや上回り、37.3%となっている。

一般・外国人別非自発的離職の割合（新規求職者）

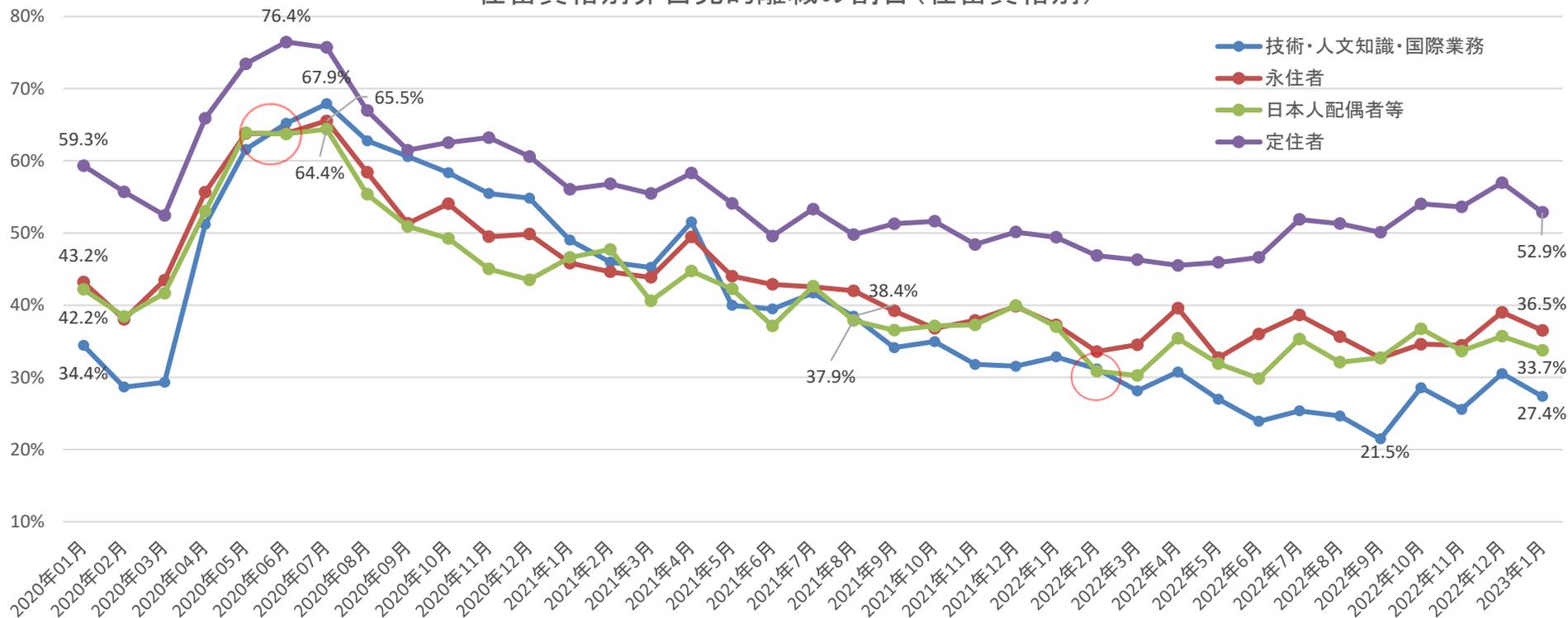


(出典) ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計（全国計）

外国人の非自発的離職の割合の推移（在留資格別）

- ハローワークの新規求職者（在職中を除く。）における非自発的な離職の割合を在留資格別に分析。
- 身分に基づく在留資格（永住者、日本人配偶者等、定住者）については、トレンドはほぼ一致しているが、在留資格により非自発的な離職の割合には差があり、定住者の割合が最も高い。
- 技術・人文知識・国際業務については、2020年6月以降は、永住者や日本人配偶者等より高い水準で推移していたが、2022年2月以降、身分に基づく在留資格より低い水準となっている。

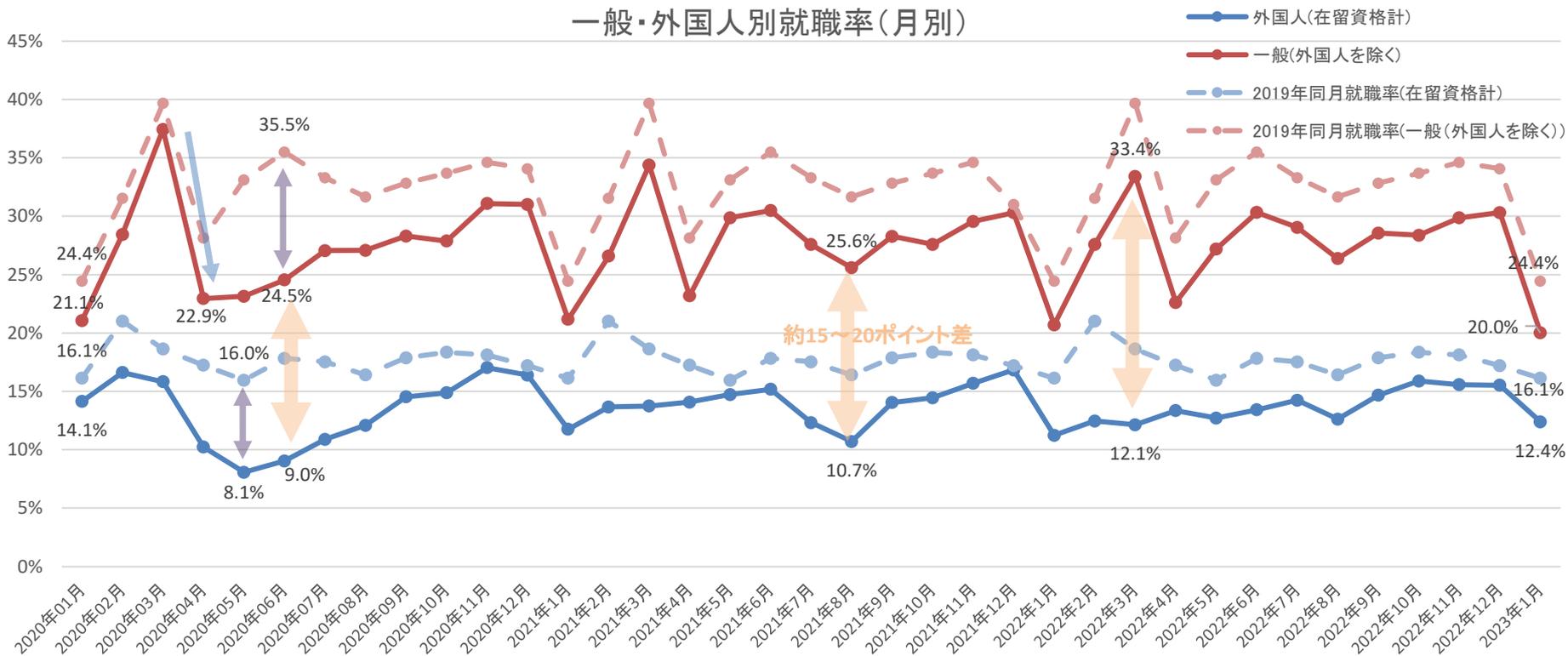
在留資格別非自発的離職の割合（在留資格別）



(出典) ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計（全国計）

ハローワークにおける一般・外国人の就職率の推移

- 一般（外国人を除く）の就職率※は、2020年4月に約23%に急減して低水準で推移し、同年6月は2019年度同月と比べて11ポイント下振れしたが、徐々に持ち直し、3～6ポイントほどの下振れ幅で推移している。
 - 外国人（在留資格計）の就職率は、2020年5月には約8%に低下し、2019年同月比で約8ポイントの下振れとなったが、徐々に持ち直し、2020年11月には2019年同月とほぼ同一となった。その後は、2019年の水準を下回るような形で推移している。
 - 外国人（在留資格計）の就職率は、日本人と比較しておおむね15～20ポイント程度低い水準で推移しており、2023年1月は8ポイント程度の差に縮まった。
- ※ 月間のハローワークにおける就職者数を同一月間の新規求職者で除した値。



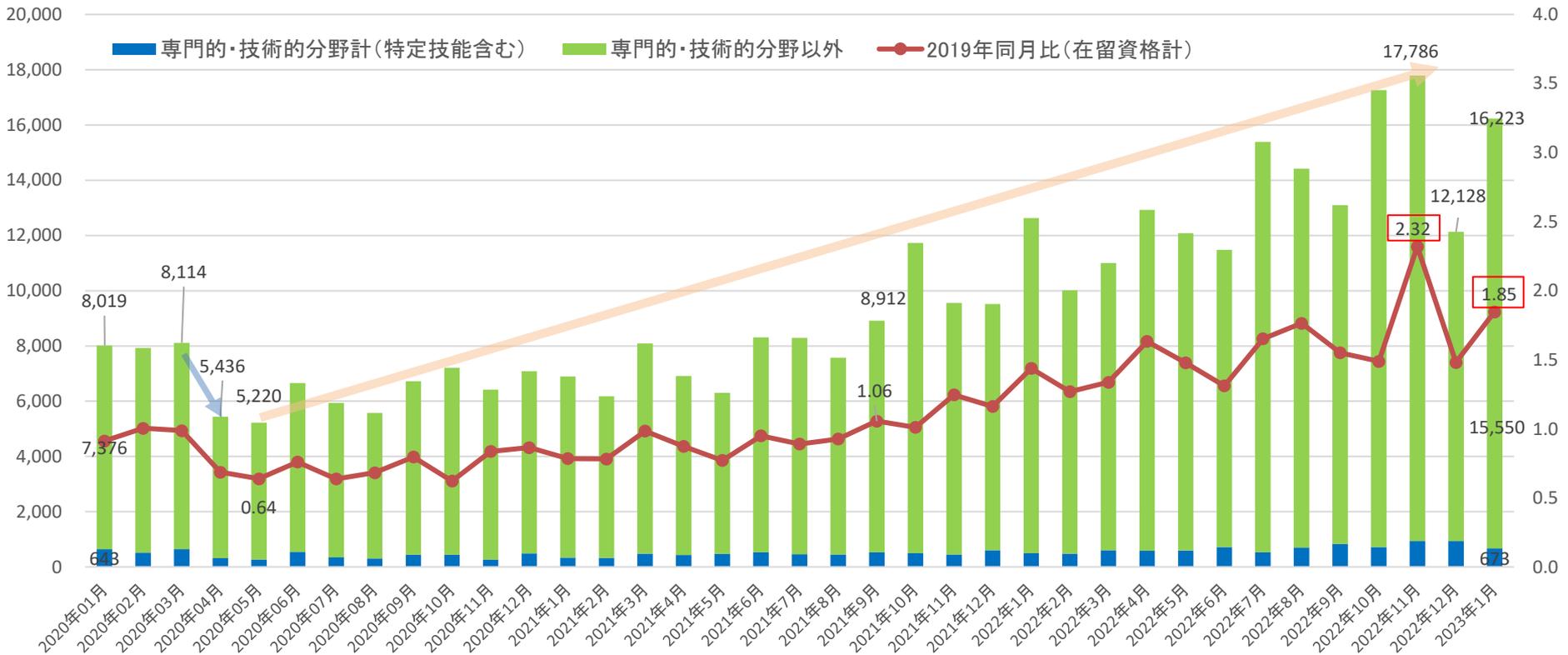
(出典) ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計 (全国計)

外国人向け求人分析

ハローワークにおける外国人向け新規求人数の推移

- ハローワークにおける外国人向け新規求人数(在留資格計)[※]は、2020年4月に急落し、その後2021年9月には2019年同月と同水準まで回復、その後も上昇を続け、**2022年11月には2019年同月比で2.32倍になった**。直近(2023年1月)では2019年同月比1.85倍となっている。
- **新規求人数の9割以上は、専門的・技術的分野以外の在留資格(永住者、日本人配偶者等、定住者等)が占めている**。
- ※ 求人受理時に明示的に外国人向けであることを把握した求人。なお、外国人への職業紹介にあたっては、外国人向け求人だけでは不足するため、一般向けの求人から外国人の就職の可能性のあるものを積極的に把握し、紹介している。

外国人向け新規求人数(在留資格別・月別)



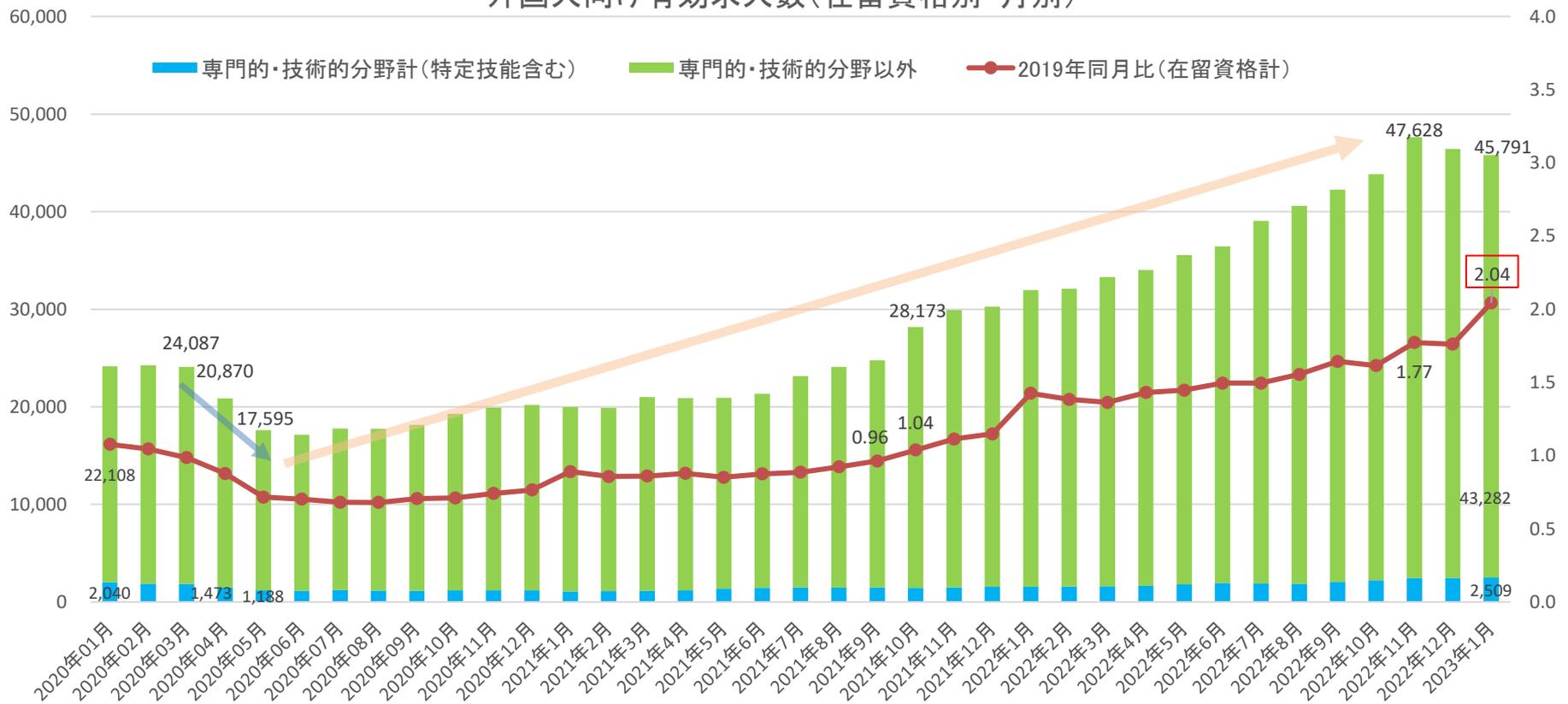
(単位：人)

(出典) ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計(全国計)

ハローワークにおける外国人向け有効求人数の推移

- ハローワークにおける**外国人向け有効求人数(在留資格計)**※は、2020年3月から落ち込んだものの、2021年10月には2019年同月と同水準まで回復し、**直近(2023年1月)では2019年同月比で2.04倍**となった。
- **新規求人数の9割以上**は、専門的・技術的分野以外の在留資格(永住者、日本人配偶者等、定住者等)が占めている。
- ※ 求人受理時に明示的に外国人向けであることを把握した求人。なお、外国人への職業紹介にあたっては、外国人向け求人だけでは不足するため、一般向けの求人から外国人の就職の可能性のあるものを積極的に把握し、紹介している。

外国人向け有効求人数(在留資格別・月別)



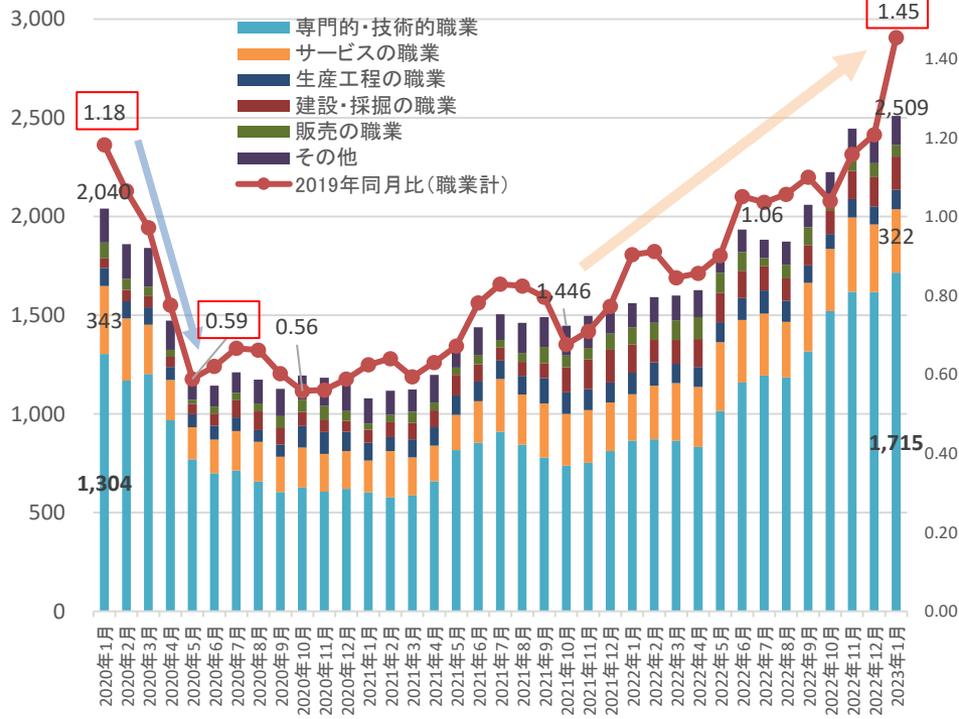
(単位：人)

(出典) ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計(全国計)

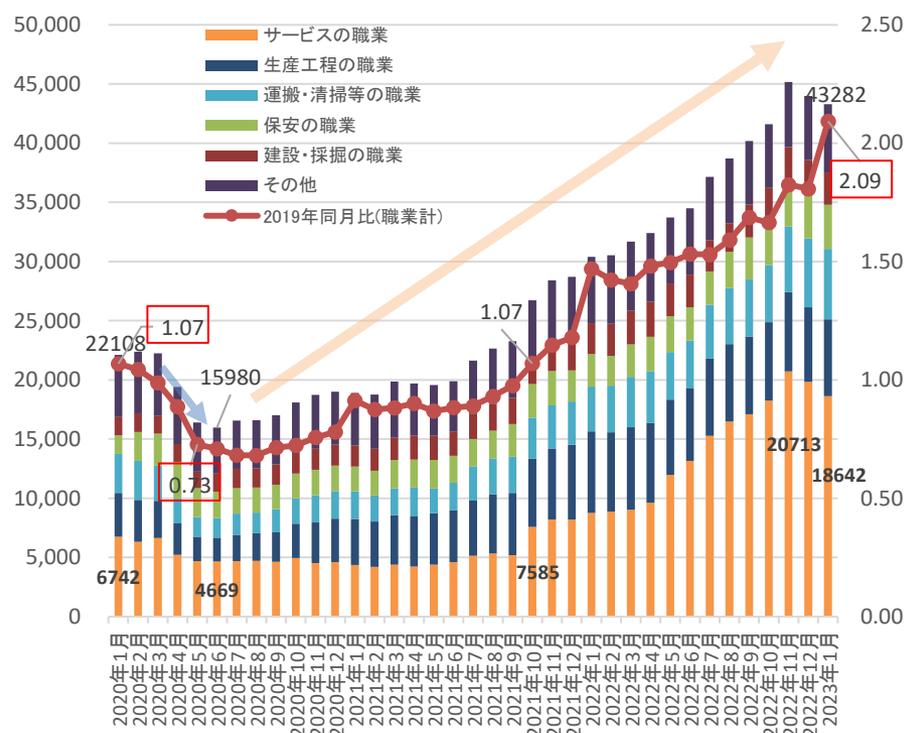
ハローワークにおける職業別の有効求人数の推移（在留資格別）

- **専門的・技術的分野の有効求人数**※は、2020年5月に2019年同月比4割減となり、その後も横ばいで推移していたが、2021年10月から増加傾向になり、2023年1月には1.45倍まで回復した。職業別では、専門的・技術的職業が**2022年**に入って以降おおむね増加傾向にある。
 - **専門的・技術的分野以外の有効求人数**※は、2020年5月には2019年同月比3割程度の減少となっていたが、2021年10月には2019年同月と同水準まで回復し、その後増加傾向が続き、2023年1月には2019年同月比で約2倍となった。職業別では、2021年10月以降、サービスの職業が継続して増加傾向にあるが、直近では、**2022年11月をピークに若干減少している**。
- ※ 求人受理時に明示的に外国人（専門的・技術的分野の在留資格を有する者）向けであることを把握した求人。なお、外国人への職業紹介にあたっては、外国人向け求人だけでは不足するため、一般向けの求人から外国人の就職の可能性のあるものを積極的に把握し、紹介している。

職業別・有効求人数の推移（専門的・技術的分野）



職業別・有効求人数の推移（専門的・技術的分野以外）

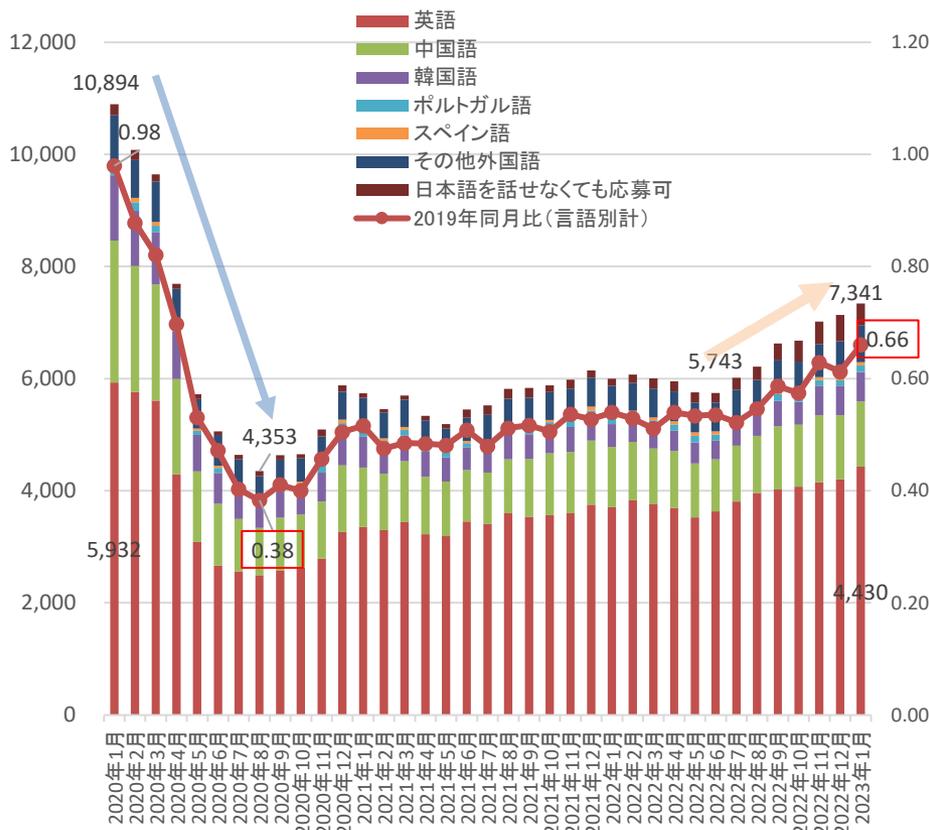


（出典）ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計（全国計）

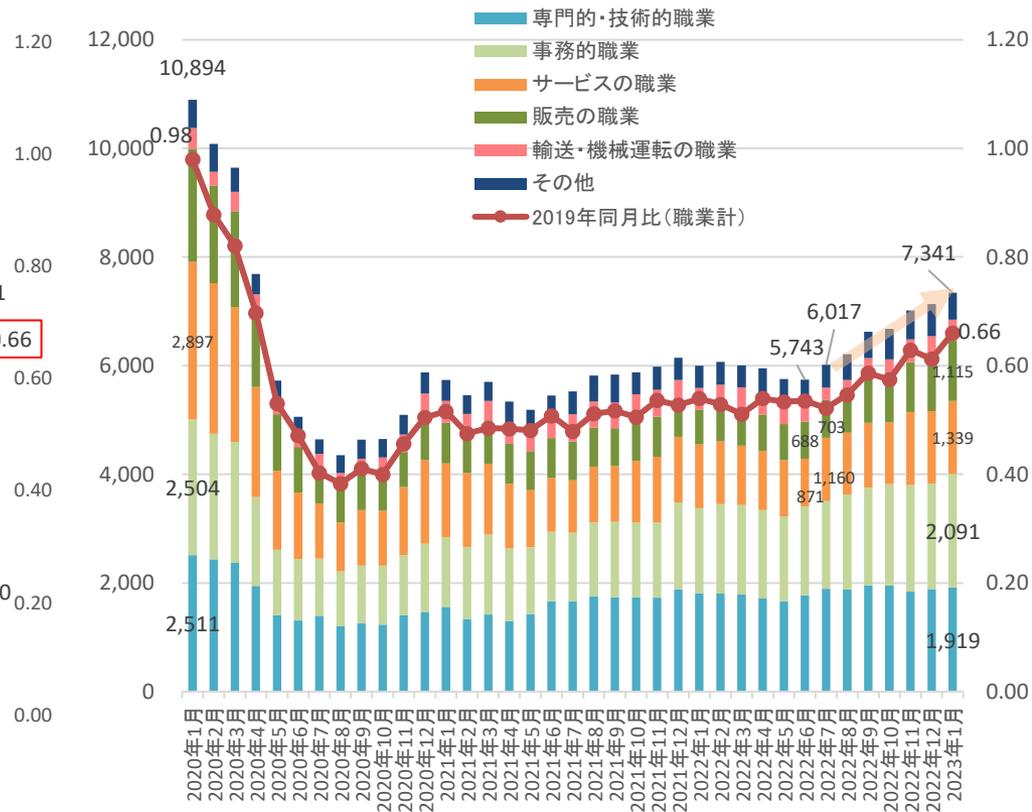
ハローワークにおける外国語使用有効求人数の推移

- ハローワークにおける**外国語使用有効求人数**※は、2020年8月には、2019年同月比で6割減まで落ち込んだが、その後は、徐々に持ち直し、**2023年1月には2019年同月比3割程度の減まで回復してきている。**
- 外国語使用有効求人数の職業別では、**2022年6月以降、特にインバウンドに関わるサービスの職業、販売の職業の増加が大きい。**
- ※ 求人受理時に明示的に業務で外国語を使用することを把握した求人。

外国語使用有効求人(月別)



職業別・外国語使用求人(有効求人)の推移(月別)



(出典) ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計 (全国計)